



PFI含め地域経営議論/和合館東北フォーラム

812 語

2021 年 11 月 12 日

建設通信新聞

NIKKET

日本語

(c) 2021 日刊建設通信新聞社

和合館工学会 (小野貴史理事長) は、仙台市内のフォレスト仙台で和合館東北フォーラム 2021 「地域を
経営する」を開いた = 写真。飛田善雄東北学院大名誉教授と吉田岳鹿島開発事業本部新領域・公民連携
マネジメント部 PFI グループ長、田邊信之宮城大教授がそれぞれ講演し、PFI を中心に持続的な
地域経営の在り方を探った。

「現状をどう認識し、どうやってインフラを守るか」と題して講演した飛田氏は「インフラは
社会的共通資本として生きる上で絶対に必要だが、社会経済全体が“定常”から“縮小”に向かっている」とし
、従来の成長路線からの転換を訴えた。

その上で時代と環境に適応した持続可能なインフラ整備について「民間資本の活用も 1 つの方法論であり、
PFI のメリット・デメリットを踏まえて“最適”を目指すことが大切だ」と説いた。

これまで約 60 件の PFI 事業に参画してきた鹿島の吉田氏は、PFI 法施行からの約 20 年を振り返り
つつ、「PFI は事業費の単価が下がる“魔法”ではない。性能発注で諸室を兼用化・小規模化して
床面積を縮小しているほか、維持管理でも IT 化や多様な職員を活用して必要なポストを削減している」と
、コスト縮減に向けた取り組みを紹介した。

また、民間企業の参加判断の動きが一層早まる中、より良い事業の実施に向けて、発注者側に情報の
早期提供を求めるとともに、目的の設定や検討内容の妥当性検証、多段階での民間対話
(サウンディング)の積極的な活用を要望。「PFI を含めたさまざまなメニューの中から最適な提案
をしたい」と自らのスタンスを語った。

「インフラ整備への民間資金の活用」と題して講演した田邊氏は、「これまで経済成長を支えてきたのは
人口増加ではなく、生産性の向上だ。そのためには企業の設備投資に加えて、共通基盤となるインフラ整備
が不可欠だ」と強調した。その上で「全地域・全産業が同じように発展するのは困難であり、一定の集中化
は必要。政策によって都市の未来は変わる」とした。その上で従来方式と PFI、証券化
それぞれのインフラ投資のあり方のほか、資金調達が多様化の必要性とその課題なども解説した。

文書 NIKKET0020211112ehbc00021

検索サマリー

テキスト	東北学院
日付	過去1週間
情報ソース	すべての情報ソース
著者	すべての著者
会社	すべての会社
トピック	すべてのトピック
業種	すべての業種
地域	すべての地域
言語	英語 Or 日本語
検索結果	34
タイムスタンプ	2021 年 11 月 12 日 11:30